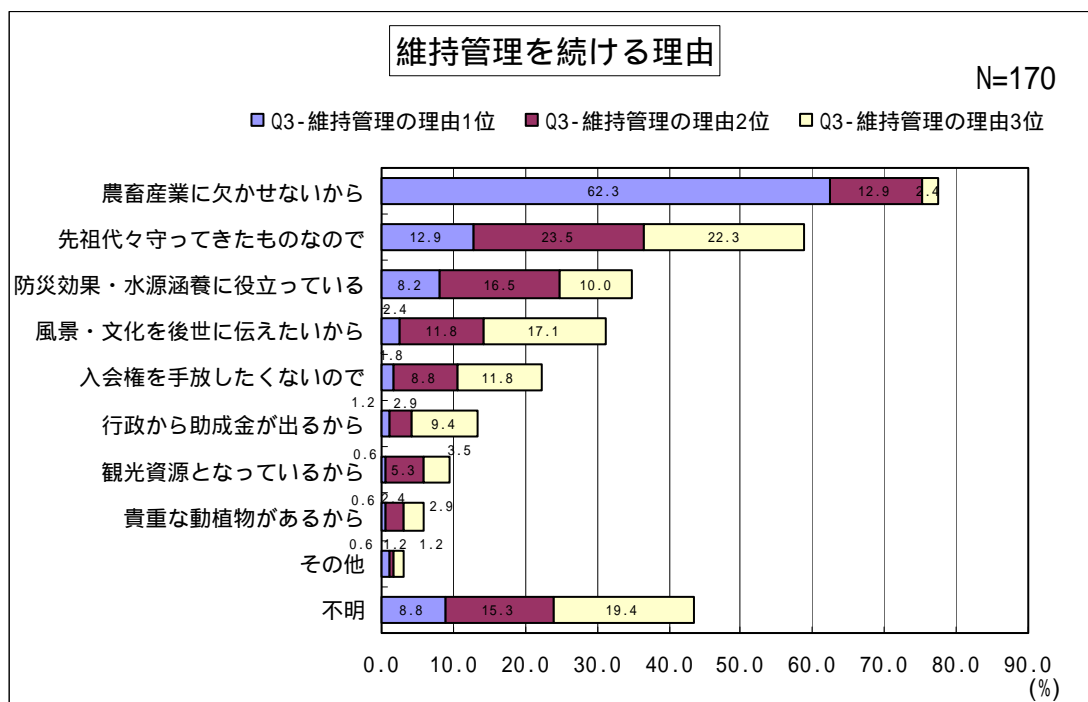


4. 牧野の維持管理への意向

(1) 牧野の維持管理を続ける理由

「農畜産業に欠かせない」「先祖代々守ってきたものなので」という理由が多い

組合で牧野の維持管理を続けている理由（重視する順位別に3つを選択）については、「農畜産業に欠かせないから」（1～3位計：77.6%）が最も多く挙げられた。次いで「先祖代々守ってきたものなので」（同58.7%）、「火災・土壌崩壊防止や水源涵養に役立っているから」（同34.7%）、「ふるさとの風景や文化として後世にも伝えたいから」（同31.3%）となっている。逆に理由として多く挙げられなかったのは「貴重な動植物があるから」「阿蘇に観光客を呼ぶ資源となっているから」等で、牧野組合では環境面や観光のため牧野を維持しているという意識は低いという結果となった。

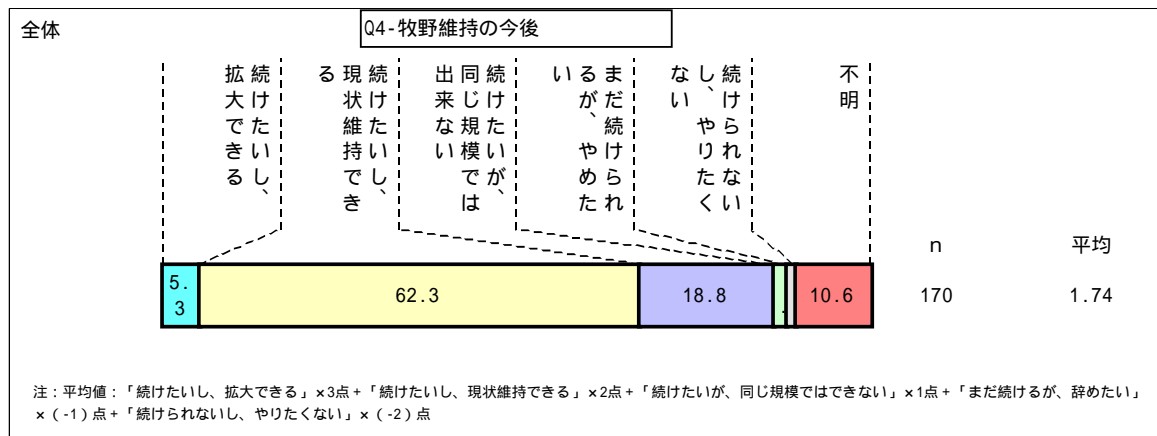


(2) 牧野維持管理作業の今後の意向

維持管理作業の継続意向のある牧野組合がほとんどだが、規模を縮小せざるを得ないと考えている牧野組合も2割弱いる

採草・放牧、野焼きなど、現在組合で行っている牧野の維持管理作業の今後の意向については、「まだ続けられるが、やめたい」「続けられないし、やりたくない」という組合はそれぞれ3組合、2組合とごくわずかで、不明（無回答）の組合を除くとほとんどの牧野組合で維持管理作業継続の意向を持っている。継続意向がある組合の中でも「続けたいし、今と同じ規模でできる」という現状維持を志向する牧野組合が62.3%と6割以上を占

める。一方、「続けたいし、拡大できる」という組合は5.3%（9組合）に留まり、「続けたいが、今と同じ規模ではできない」という規模を縮小せざるを得ないと回答している組合も18.8%（32組合）と比較的多い。



5. 非利用牧野の活用意向

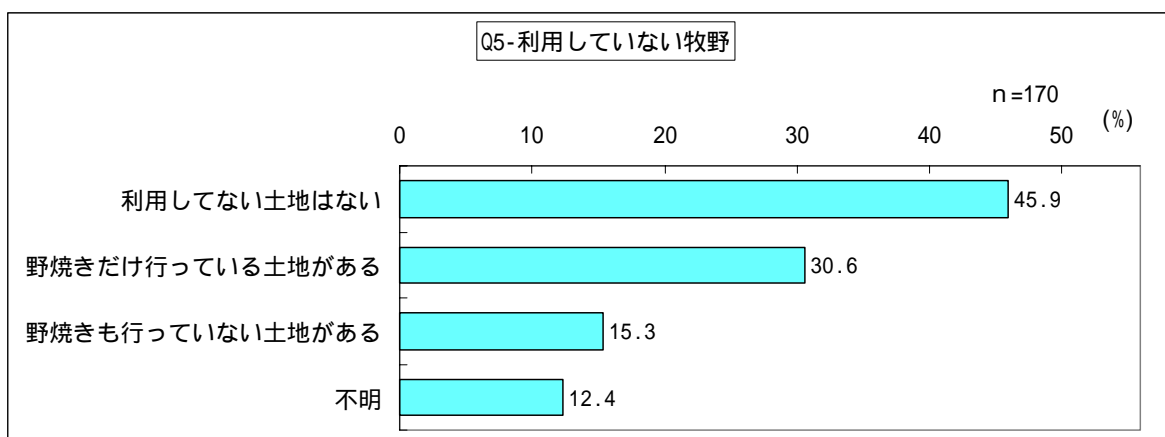
(1) 牧野の利用状況

非利用の牧野がある牧野組合は4割に上るが、非利用牧野の面積では総面積の1割強と推計される

牧野の中で、かつて利用していたが現在は利用していない部分があるかとの設問については、「利用していない部分はない」という牧野組合が45.9%（78組合）である。一方、

「採草も放牧もしていないが野焼きはしている部分がある」という牧野組合は30.6%、

「野焼きもせず放置している部分がある」が15.3%である。これらいずれかの牧野を有している牧野組合は41.8%（71組合）である。



利用していない牧野を面積別でみると、「採草も放牧もしていないが野焼きはしている部分がある」という牧野組合の当該面積については、5ha未満から100ha以上まで組合によって面積に大小があり、一牧野組合当たりの平均は39.5haである。「野焼きもせ